

施策評価シート (平成30年度の振り返り、総括)

作成日 平成31年 06月 07日

施策 No.	5	施策名	まちの活力再生・魅力創出プロジェクト
主管課名	都市計画課	電話番号	0285-83-8151
関係課名	都市計画 新庁舎周辺整備室 商工観光 財政 農政 スポーツ振興 情報政策		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度見込
人口	人	81,511	80,929	80,698	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324

施策の意図	若い世代が魅力を感じ、担い手となって未来をとともに描いていけるような、新たなもおかの元気を創出する。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> 観光客入込数は、県調査によるデータ。(平成29年1月～平成29年12月) 撮影候補地数、放映件数、撮影の問い合わせ件数は、観光協会データによる。 競技力向上成果表彰者数、総合型地域スポーツクラブ会員数は、スポーツ振興課の集計により把握する。 								
成果指標名	単位	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度基本計画目標値
観光客入込数	人	2,463,570	2,845,313	2,865,281	2,865,612	2,912,127	2,990,649	2,960,527	3,000,000
撮影候補地数	箇所				53	53	53	53	53
放映件数(累計)	件				6	26	40	53	58
撮影の問い合わせ件数(累計)	件				30	80	130	183	241
競技力向上成果表彰(年者数)	人				88	95	74	78	98
総合型地域スポーツクラブ会員数	人				0	291	312	263	350

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	
-------------------------	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（１）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

観光客入込数は、年々増加しており平成30年は2,960,527人で、平成28年と比較して48,400人（101.7%）の増加となっている。なお、平成29年と比較すると平成30年は30,122人減少しているが、これは夏祭大花火大会の観光客入込数が台風の影響で5万人減少したことによるものである。

平成28年 2,912,127人（前年比 101.6%）

平成29年 2,990,649人（前年比 102.7%）

平成30年 2,960,527人（前年比 99.0%）

○フィルムコミッションの推進

撮影候補地数については、平成28年度から53箇所に変更はないが、放映件数及び撮影の問い合わせ件数は増加している。

放映件数 平成28年度 26件 平成30年度 53件（27件増）

問い合わせ件数 平成28年度 80件 平成29年度 183件（103件増）

○スポーツによるもおか創生の推進

・真岡市体育協会年度内表彰者については、平成30年度は78人で、平成28年度と比較して17人減少している。

・統合型地域スポーツクラブ会員数については、平成30年度は263人で、平成28年度末と比較して28人減少している。

（２）近隣他市との比較

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

平成27年から平成30年の観光客入込数は4年連続で県内14市中10位であった。

○コミュニティFM事業

・県内では既に栃木市（FMくらら）、宇都宮市（ミヤラジ）、小山市（おーラジ）が開局しており、下野市が令和元年12月に開局を予定している。

・ミヤラジは民営であるが、開局予定の下野市も含めた3局は本市と同様の公設民営方式である。

（３）住民期待水準との比較

○中心市街地のリノベーションの推進

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「都市基盤の整備」は、28年度：12.4%、29年度：19.1%、30年度：17.4% 前年比 1.7%減 38項目中9位

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「観光の振興」は、28年度：9.9%、29年度：8.8%、30年度：8.9%、前年比 0.1%増 38項目中23位

○スポーツによるもおか創生の推進

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「スポーツ・レクリエーションの振興」は、28年度：7.2%、29年度：8.1%、30年度：7.9% 前年比 0.2%減 38項目中26位

○廃校施設等を活用した地域活性化の取組

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「廃校施設を活用した地域活性化の取組」は、28年度：8.8%、29年度：15.5%、30年度：11.7 前年比3.8%減 38項目中16位

30年度の
評価結果

30年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

1. 中心市街地のリノベーションの推進

・中心市街地のうち台町地区を対象に、まちづくりの整備手法に係る説明会の開催や、地域の現況調査、住民アンケート等を実施し、地域の課題抽出と住民意向の把握に努めた。
・木綿会館及び久保記念観光文化交流館の再整備を行い、リニューアルオープンした。また、職員によるワーキンググループが、栃木県景観形成アドバイザーから「おもてなし」の手法や技法を学び、木綿会館と観光物産館の商品陳列や模様替え等を行った。

2. まちのステーション整備の推進

・市民アンケート調査、民間事業者と意見交換としてサウンディング調査（対話型市場調査）を実施し、新庁舎周辺整備基本構想を策定した。

3. DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

・D51型SLの運行を目玉に、本市独自のDCオープン式典をSLキューロク館で開催し、約8千人の来場者で賑わった。
・芳賀地区観光推進協議会と連携し、JR上野、大宮駅でDCパンフレットの配布といちご等特産品の販売を行い、さらなるPRに努めた。
・本市の3大観光資源である「いちご」「SL」「真岡木綿」を活かした、いちご染体験やSL運転体験など、新たなイベントを企画し誘客を図った。

4. フィルムコミッションの推進

・市及び観光協会のホームページへの掲載や「栃木フィルムコミッション」への撮影地登録の他、イベント開催時にPRブースを出展し活動内容を紹介するなど、積極的な情報発信に努めた。

5. 廃校施設等を活用した地域活性化の取組

・地域の意見、要望等を把握するため地域座談会を開催し、民間事業者等の意向を把握するためのサウンディング調査（対話型市場調査）を実施した。
・利活用事業者の公募を実施し、有識者や地域の代表者等で組織する選定委員会において、廃校4校のうち3校の優先交渉権者を選定した。

6. 各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

・全国いちごサミットin真岡実行委員会を設立し、基本計画を策定した。
・上野駅・大宮駅での真岡産とちおとめを使ったスイーツの販売（1月）、有楽町駅前でのステージイベントやいちごの無料配布（1月）、横浜ストロベリーフェスティバル2019に11日間真岡市のブース出展（2月）、井頭公園を会場に全国いちごサミット1年前イベント開催（3/17）など、市内外に向けてサミット開催と日本一のいちごのまちをPRした。
・真岡グリーンツーリズム推進協議会を設立し、交流イベントとしてモニターツアーや真岡いちごウォークを開催した。また、いちごを核とした真岡市の魅力を発信するため、有名シェフ協力のもと真岡市産のいちごとトマトを利用したスイーツ「夢みるいちごのダックワーズ」を開発・発表した。

7. スポーツによるもおか創生の推進

・スポーツ・レクリエーションの活動拠点として、平成23年度から整備を進めている総合運動公園北ブロック（13.7ha）の整備が完了した。
・栃木SC支援事業として、真岡市民デーの開催や親子サッカー教室を実施するなど、プロスポーツ界で活躍する選手と直接交流できる機会を設けた。（真岡市民デー参加275名、親子サッカー教室参加144名）
・競技力の向上とスポーツに触れる機会を提供するため、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を支援した。
総合型地域スポーツクラブ「もおかスポーツクラブ」
会員数263名 スポーツ教室の開 10種目187回、参加延べ人数4,828人
スポーツ少年団 41団体登録 大会参加（郡大会以上）交付金の交付 12件

8. コミュニティFM整備事業

・令和2年度の開局に向け国との協議を進めた。また、先進地視察を通じて事業内容を検討し、実施設計を行った。

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

1. 中心市街地のリノベーションの推進

・中心市街地の活力再生と魅力の創出に向け、低未利用地や空き家、空き店舗等の有効利用を図るとともに、地域と話し合いながら、まちなか居住のための基盤整備や道路と街並みが調和した沿道整備など、中心市街地リノベーション基本構想を策定する。
・リニューアルオープンした木綿会館及び久保記念観光文化交流館を中心としたイベント等の開催により、中心市街地の賑わいを創出し活性化を図る。

2. まちのステーション整備の推進

・新庁舎周辺整備基本構想を基に、民間活力導入可能性調査として、従来型の公共事業方式と、PFI等の公民連携事業方式での財政負担を試算、最も有効な事業手法の検討を行うとともに、基本構想をより具体化した基本計画を策定する。

3. DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

・SLキューロク館や久保記念観光文化交流館、真岡木綿会館などへの回遊させる取組みを展開し、賑わいを創出して行く。

4. フィルムコミッションの推進

・ロケーション撮影地の掘り起こしや情報収集に努め、メディア等に積極的に情報発信して行く。
・これまでに放映された場所に看板等を設置するなどPRに努める。

5. 廃校施設等を活用した地域活性化の取組

・優先交渉権者を選定した旧山前南小、旧中村東小、旧中村南小については、利活用方法の事業化に向けた準備を進め、賃貸借契約の締結を目指す。
・優先交渉権者を選定できなかった旧東沼小については、利活用方法を再検討する。

6. 各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

・全国いちごサミットin真岡（3/14・15）を開催し、日本全国に「日本一のいちごのまち もおか」を発信する。
・真岡市の魅力を発信し、体感・実感・魅力への気づきを促進させ、交流人口の増大や移住・起農につなげるため、引き続き、プロモーションイベントを開催するとともに、滞在プラン、体験プログラムの開催準備、既存プログラムの磨き上げなど、真岡式グリーンツーリズムの構築を推進して行く。

7. スポーツによるもおか創生の推進

・総合運動公園整備の推進を図る。（南ブロック12.9haの整備）
・本市のスポーツ・レクレーションを推進するため、基本的な方向性を定める「真岡市スポーツ推進計画」を令和元年度中に策定し、推進して行く。

8. コミュニティFM整備事業

・引き続き、開局に向け国との協議を進めるほか、機器調達業務及び予備免許の申請を行い、新庁舎に合わせた開局を目指す。

30年度の
評価結果

補足事項